聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」
「直ぐな心で（ヨシェル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う
詩篇 119：7、エペソ人 6：5**「*真心から*」**、マタイ 13：44－46
しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

➞2ダイナミックな多角的、立体構造：
神の視点、人類史に先立って配備された摂理
➞3古代ヘブル（イスラエル）史を通して記された正確な人間史：
過去（史実）を学び、現在を見分け、未来を見通す洞察力習得のテキスト

使徒パウロの宣教　　その7

使徒の働き 15、16章
背景
☆『*ガラテヤ人への手紙*』2章
　☆ペテロ、異邦人の救いに敏感になっていた
☆異邦人信徒に課す義務に関して論争が起こった
　☆異邦人キリスト者の「親」としてのアンテオケ　⇔　「母」教会としてのエルサレム
　☆分裂の危機
☆パウロとバルナバ、エルサレムの長老たちに、解決を求めた

エルサレム会議
☆使徒たちの最初の会議、エルサレムで開かれた
　☆まず、ペテロが証し
　　➞使徒の働き15：10－11
☆持ち上がった二つの問題
　1. 異邦人は救われるために何をしなければならないか？
　　☆異邦人は律法の下に置かれているのだろうか？
　2. メシヤの御国は律法下にあるのだろうか？
　　☆イスラエルの未来、復興？
　　☆教会は「霊のイスラエル」？
☆ヤコブの答え
　➞使徒の働き15：14－16
　「*…この後、わたしは帰って来て、倒れたダビデの幕屋を建て直す…それを元どおりにする*」
☆解決策
　☆異邦人信徒は偶像、姦淫、動物の絞め殺し、血を放棄すべき
　☆しかし、モーセの掟、慣習、儀礼上の掟、割礼ほかへの献身は必要ない

使徒の働き

15章（新改訳2017）
：2「*…パウロとバルナバ、<u>そのほかの何人か</u>が…エルサレムに上ることに…*」（下線付加）：
　✶その一人はテトス
：6「*…使徒たちと長老たちは、<u>この問題</u>について協議するために集まった*」（下線付加）：
　✶割礼は、問題の一つ
：7「*…神は以前にあなたがたの中から私をお選びになり、異邦人が…信じるように…*」：
　✶ペテロ、カイザリヤのコルネリオの一族郎党の救いに自分が召されたことに言及

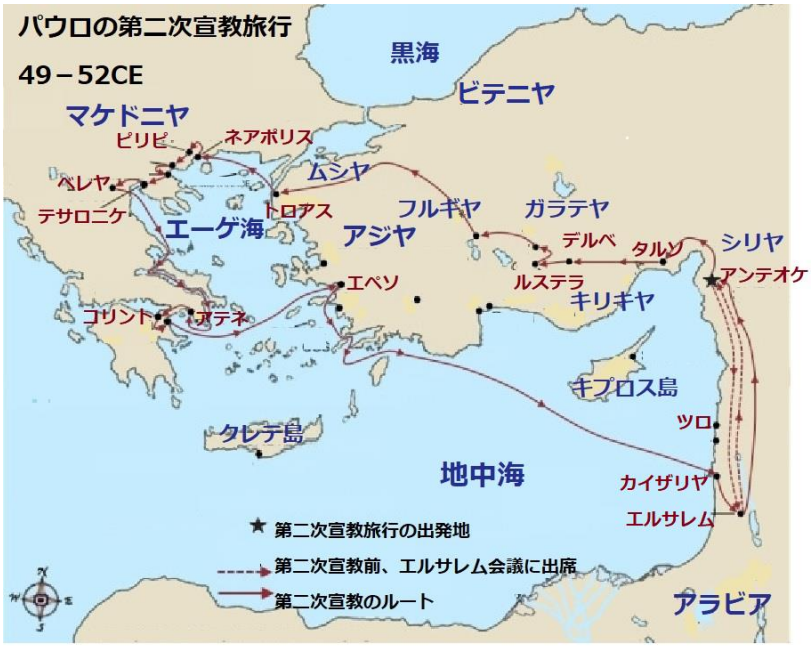
：11「*私たちは、主イエスの恵みによって救われると信じていますが、あの人たちも…*」：
✶あの異邦人たちは割礼を受けていなかったが、救われた
✶なぜ、彼らが割礼を受ける必要があるのか？
✶語順転置でのペテロの言葉、―「あの人たちも救われたのだから、
私たちユダヤ人も信仰によって救われることになっている」― は圧巻！
：13「*…ヤコブが応じて言った。『兄弟たち、私の言うことを聞いてください*」：
✶キリストの実弟ヤコブの新しい時代を画する重大なメッセージ
✶異邦人をも含めた全人類の救いに言及
：14「*…異邦人を…お召しになったかについては、シメオンが説明しました*」（下線付加）：
✶ペテロのヘブル名
「*異邦人を顧みて、彼らの中から御名のために民をお召しになった*」：
✶異邦人の救いの時代、「*異邦人の満ちる時*」の始まり
➡ローマ人11：25－27
：16「*『その後、わたしは倒れているダビデの仮庵を再び建て直す…それを堅く立てる*」：
✶ヤコブ、アモス書9：11－12からの引用で、イスラエルの未来はどうなるのか？に返答
「*その後*」：
✶異邦人の中から民が召しだされた後、「わたし」が来る
✶だれが？　キリストが！
「*ダビデの仮庵を再び建て直す*」：
✶ダビデ契約の成就
➡サムエル記第二7：8－17ほか

ローマ人への手紙 9、10、11章
☆パウロ、イスラエルの未来に言及
→盲目状態が取り除かれるときが来る
ローマ人11：25
→「*奥義*」
エペソ人3：3－6
☆「*異邦人の満ちる時*」の後、二つの事が起こる
1. イスラエルから不信仰の覆いの取り除き
2. イエス・キリストの再臨

イスラエルの未来
➡ダニエル書9章、イザヤ書63章、ゼカリヤ書12、14章、ホセア書5章、黙示録12章ほか…
☆イスラエルの未来に関して、神の言葉の正しい理解が必須
「今王国」、「教会の支配神学」、「置換神学」、「キリスト教再建主義」はみな非聖書的

：20「*…偶像に供えて汚れたものと、淫らな行いと、絞め殺したものと、血とを避ける…*」：
✶イスラエルと教会は別個の対象
✶救いのために異邦人信徒がイスラエルのくびきを担わなければならない理由は何もない
「*偶像…淫らな行い*」：
✶異邦人の二つの主要な罪
「*絞め殺したものと、血*」：
✶血が象徴する「生命」を奪う行為、―血の飲食、殺人― はすべて、禁止
：22「*シラス*」：
✶使徒の書簡では、「シルワノ」
：24「*…私たちの中のある者たちが出て行って…あなたがたを混乱させ…動揺させた…*」：
✶「*サタンの会衆*」
黙示録2：9－10ほか
✶割礼は心に施されるもの、外見的な肉の割礼以上に、象徴的意味が重要
：31「*人々はそれを読んで、その励ましのことばに喜んだ*」：
✶教会の分裂が避けられ、喜びが起こった！

パウロの第二次宣教旅行



→使徒の働き15：36－16：40

アンテオケ
→シリヤ、キリキヤ地方
→デルベ
→ルステラ
→フルギヤ・ガラテヤ地方
→トロアス
→サモトラケ
→ネアポリス
→ピリピ

使徒の働き15章

：36「*それから数日後…『…また行って見て来ようではありませんか。』*」（下線付加）：
　✶前節との間の長い「とき」の経過、省かれている
：37「*バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネを一緒に連れて行くつもりで…*」（下線付加）：
　✶マルコのおじ
：38「*しかしパウロは、パンフィリアで一行から離れて働きに同行しなかった者は…*」：
　✶マルコ、第一次宣教旅行のとき、早い時点で一行を離れた
　✶パウロ、マルコに二度目のチャンスを与えなかったが…

16章

テモテの選び
☆テモテ、パウロが第一次宣教時にルステラを訪ねたとき、福音を聞いて回心した
☆母ユニケ、祖母ロイス、テモテに幼少時から聖書を教示　→テモテ第二1：5、3：15
☆パウロとの親密な関係　→テモテ第一1：2「*真のわが子テモテ*」ほか
☆パウロの第二次宣教時、パウロに同行

：3「*パウロは、このテモテを連れて行きたかった。それで…彼に割礼を受けさせた…*」：
　✶パウロ、ユダヤ人の偏見を逆なでしないよう、テモテに割礼を受けさせた
　✶ひとえに宣教のための配慮
：6「*…彼らは、アジアでみことばを語ることを聖霊によって禁じられた…*」（下線付加）：
　✶ヨハネの黙示録の七つの教会のある一帯
：9「*その夜、パウロは幻を見た。一人のマケドニア人が立って…懇願…*」（下線付加）：
　✶ダーダネルス海峡を渡ったギリシャはヨーロッパ
：10「*パウロがこの幻を見たとき、私たちはただちに…渡ることにした…*」（下線付加）：
　✶『*使徒の働き*』の著者ルカ登場
：11「*私たちはトロアスから船出して、サモトラケに直航し…*」（下線付加）：
　✶トロアスとピリピとの中間地点、北エーゲ海諸島では最高峰

聖書

ピリピ

☆紀元前42年、42BCE、ローマ共和国を終らせる決戦場となった地
☆ジュリアス・シーザーの殺人者たち、ブルータスとカシウス、
　マーク・アントニウスとオクタヴィアヌスの連合軍に破れた
☆オクタヴィアヌス、後に、皇帝アウグストになったとき、ピリピ人にローマの市民権を与えた
☆パウロ、ピリピの人たちに向けてのメッセージで、この世の特権に言及せず、
　未来の希望に焦点を当てた　　➞ピリピ人3：20

導きの不可思議

☆パウロ、バルナバと激しい議論の後、異なったルートで旅に出た
☆ルステラでテモテに会った
☆アジヤに行きたいと思ったが、聖霊によって禁じられ、ガラテヤで宣教した
☆その後、ビテニヤに行こうと思ったが、再び聖霊により禁じられ、西に向かった
☆そのとき、マケドニヤの人のビジョンが与えられた
☆聖霊、パウロをトロアス、ピリピ、テサロニケ、ベレヤ、アテネ、コリントへと導かれた

御霊の導き

1. 必ずしもいつも炎が燃え上がるようなビジョンによってではない
2. 人の耳に語られる明確な言葉によってでもない
3. 開かれた事情/状況を通して、当たり前のことを通して、困難を通して、暗やみの体験を
　通して、失望、落胆、悔しさを通して、さまざまな方法で神は導かれる

☆御霊が導かれる人は聖霊が導くことのできる状態/姿勢にある人
　健全な人生の姿勢、主に忠誠な姿勢、聖霊の導きを信じている人、絶えず主を見守っている人

：13「*…安息日に、私たちは町の門の外に出て、祈り場があると思われた川岸に行き…*」：
　✶ユダヤ教の会堂開設には、大人のユダヤ人男性十人が必要
　✶婦人たちの祈りのグループ、福音をヨーロッパへ
：14「*リディアという名の女の人が聞いていた…<u>紫布</u>の商人で…*」（下線付加）：
　✶有名な紫染料、「ホネガイ」、貝から抽出
　「*ティアティラ*」：
　✶パウロが*訪問を省いた町*の一つ
：16「*…祈り場に行く途中のこと…<u>占いの霊</u>につかれた若い女奴隷に…*」（下線付加）：
　✶ギリシャ神話のパイソン、アポロによって滅ぼされた大蛇
　✶用語は、予言魔と同義
　✶この占い女は、アポロの「チャンネル」
　✶オカルトは私欲が動機
：18「*何日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り向いてその霊に…*」：
　✶悪霊、人をたぶらかし、潜入できなければ、次の手段は抑圧
　✶むき出しの暴力、暴言、嫌がらせは敵の要塞が攻撃されていることの証拠
　　➞コリント人第二10：4
：25「*真夜中ごろ、パウロとシラスは祈りつつ、神を賛美する歌を歌っていた…*」：
　✶苦しみは、神の導きの一部
：27「*…看守は…囚人たちが逃げてしまったものと思い、剣を抜いて自殺しようとした*」：

債務証書

☆もし囚人が脱走すれば、その債務を看守が支払わなければならなかった
☆囚人が服務期間を終了すれば、裁判所は債務証明書に「完全に支払われた」と署名した
➪キリストは、私たちに、罪の完済の債務証書を与える偉業を達成してくださった

：31「*…『主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。』*」：
　✶この看守、ピリピ、―ヨーロッパで― 最初の回心者となった
　✶家族の者たちもみな信じたので、救われた
：38「*…すると長官たちは、二人がローマ市民であると聞いて恐れ*」：
　✶ローマ市民には裁判への権利があった
　✶ローマ市民は法的な手続きなしで処罰されることから守られた